

NEWS RELEASE

平成31年3月20日

お客様へ

株式会社 栃木銀行
取締役頭取 黒本 淳之介

「とちぎ地域活性化ファンド」による出資について ーカラスのコミュニケーションを利用したカラス被害対策で地域を活性化ー

株式会社栃木銀行（取締役頭取 黒本淳之介）と株式会社とちぎんキャピタル（代表取締役 江連美久）が平成27年2月に設立した「とちぎ地域活性化投資事業有限責任組合」（通称：とちぎ地域活性化ファンド、運営会社：株式会社とちぎんキャピタル）（以下、「本ファンド」とする。）は、株式会社 CrowLab（代表取締役 塚原 直樹）（以下、「同社」とする。）に対する出資をいたしましたので、お知らせします。

近年、カラスをはじめとした鳥獣被害は大きな社会問題となっており、果樹農家や畜産農家における食害や糞害など経済的被害を伴うものから、ゴミステーションでのゴミ漁りなど不快感を伴うものまで、多岐に渡っています。現在、爆音機や天敵の模型など、脅しの効果を狙った対策製品が市販されていますが、学習能力の高いカラスは数日で慣れてしまうため、決定打となる製品はありません。

そのような中、同社は宇都宮大学発ベンチャーとして、代表取締役の塚原氏によるカラスの音声コミュニケーションや視覚に関する16年間の研究ノウハウを活かし、カラスの生理・生態を踏まえた、被害対策に関するコンサルティングや被害対策製品の開発・販売を行っております。同社が提供するサービスは、視覚と聴覚の両面からカラスが嫌がる状況を作り出すことにより、追い払い効果が高く、また、慣れが起こりにくいといった特徴があります。

本事業は、当行主催の「第3回とちぎんビジネスプランコンテスト」で最優秀賞を受賞するなど、全国共通の社会課題を解決するビジネスモデルとして成長が見込め、ヒトとカラスが共存する社会を目指すという社会的意義も大きいことから、地域活性化を支援する本ファンドの運用趣旨と合致し、今回出資を行い同社の発展を支援いたします。

本ファンドは、「とちぎん地域産業創生プログラム」（注1）の一環として設立したものであり、創業・新事業または将来成長が見込まれる地域企業に対し、「株式による出資」と併せ、栃木銀行グループの多様なネットワークを活用して企業の成長を全面的に支援する等、事業の持続的な成長発展・雇用の創出を目的としております。

（注1）平成27年2月に国の「まち・ひと・しごと創生法」にもとづく、地方創生、地域活性化の役割を担うため、地域産業の育成を目的に策定した当行独自のプログラムです。

NEWS RELEASE

【出資先概要】

出資先	株式会社 CrowLab
代表者	代表取締役 塚原 直樹
本社所在地	栃木県宇都宮市中央3丁目1-4
設立	平成29年12月
主な事業内容	カラス被害対策に関するコンサルタント、対策製品開発・販売
出資日	平成31年 3月20日

【ファンド概要】

名称	とちぎ地域活性化投資事業有限責任組合
ファンド総額	10億円
出資者	株式会社 栃木銀行 株式会社 とちぎんキャピタル
投資形態	株式による出資（普通株・種類株等）
投資対象	栃木銀行営業区域内で事業を営む未上場企業のうち、創業・新事業または将来成長が見込まれる企業等
運営会社	株式会社 とちぎんキャピタル

【ファンドスキーム図】

